



# 駆け上れ 夢のマウンドへ

**大** 崎市初のプロ野球選手が誕生しました。現在

岩出山高校三年生の今野龍太さんがその人です。地元宮城を拠点とする東北楽天ゴールデンイーグルスから、投手としてドラフト九位の指名を受けました。県大会上位常連校でもなく、甲子園出場などの大きな勳章はなくとも、投球技術や精神的な強さなどを含めた素質が高く評価されての指名であり、プロ野球選手として、これからの成長に大きな期待がかけられています。

昨年春の県北部地区大会、岩出山高校硬式野球部は、部員わずか十一人で臨み、龍太さんの力投に依る全員野球が実を結び、三十年ぶりとなる県大会出場の切符を手に入れました。龍太さんはこの時、全五試合で六十四奪三振、完封一つを含む四つの完投勝利をおさめます。そして、夏の選手権大会初戦、最高速度百四十六キロの直球とスライダーを駆使し、九回十六奪三振でノーヒットノーランを成し遂げました。

これらの活躍が楽天球団スカウトの目に留



■普段は純朴で礼儀正しく、笑顔が似合う好青年の龍太さん。厳しい世界へ進みますが、気負わず、焦らず、がんばれ！



■恩師の相原正美先生、バッテリーを組んだ岩高野球部前主将山田裕之さんと共に、トレーニングに励みます



■岩高野球部の後輩の皆さんも、龍太さんからの刺激を受けて気合い十分。来季の活躍が期待されます



■12月12日、伊藤市長へ楽天球団への入団を報告。サインボールを手渡し、活躍を力強く宣言してくれました

まり、ドラフト会議での指名へとつながりました。

十二月九日、仙台市内で行われた新入団選手発表会では、初めてプロのユニフォームに袖を通し、正式にチームの一員としてお披露目されました。背番号は九十九。この大きな番号には「這い上がって来い」という球団の願いが込められているようです。

**龍** 太さんは、小・中・高山で野球を続けてきました。小学二年生から野球を始め、四年生から投手として投球技術を身に付けてきました。当時のことを振り返ってもらおうと「他の仲間と変わらない普通の野球少年で、あまり勝った記憶はない」と話します。

高校では三年生が引退すると部員不足となり、一・二年生が主体の新人戦には一度も

出られませんでした。しかし「進学しても、社会人となっても野球を続けていくつもりだった。努力すれば必ず報われると信じて練習に取り組んだ」と話します。その成果は、高校野球生活最後の年に劇的な結果として表れ、自らの努力でプロ野球選手への道を力強く手繰り寄せたのです。

**指** 導してきた岩出山高校硬式野球部監督の相原正美先生は、龍太さんをプロの世界へ送り出すことに悩んだ時期もあると言います。大学を経てからでも遅くないのではないかと。しかし、本人の迷いのない決断と楽天球団スカウト上岡良一さんからの高い評価を聞き、卒業まで全力で支える決意をしました。

相原先生は「龍太は線が細いので、今は徹底的に体を鍛え直し、基本に立ち返った練習を繰り返している。ドラフト一位の松井裕樹選手に追いつくには、まだまだ努力しなければならぬ。高校の同級生が大学生や社会人として楽しくやっていると、プロの自覚を持って節制した生活をしなければならぬ。そういう厳しい世界にこれから足を踏み入れる」と、浮足立つことなくプロの世界へ進めるよう自制・自律を促しながら、

厳しさを持って親身に指導をしています。

龍太さんにこれからの目標を聞くと、「一軍でプレーするための努力は惜しまない。早くホームグラウンドのマウンドに立ち、支えてくれた先生方や仲間、地域の皆さん、そして家族に活躍する姿を見せることが最大の恩返しであり目標。いずれは田中将大選手を超える投手を目指したい」と力強く話してくれました。

**ま** だあどけなきが残る龍太さんですが、何年か後には、精悍さを備えた第一線のプロ野球選手として、成長した姿を私たちに見せてくれるはずです。そしていつか、大崎市民で埋め尽くされた球場のマウンドで快投する龍太さんの姿が見られる日を願います。熱く大きな声援を送って、後押ししていきましょう。